

# シリーズごしみ

## 第1回

南部町は自然に恵まれた美しい町です。町内にはボート遊びもできる緑水湖、郷愁の念を誘う法勝寺川の土手に並ぶ桜並木、夏の夜の幻想的な光のダンスを楽しませてくれる蛍が乱舞する蛍の里などがあり、恵まれた自然環境を次世代に受け継ぎ、後世の子々孫々まですばらしい環境を残していきたいと思えます。

現在私たちの住む地球において、18世紀から19世紀にかけて工場制機械工業の導入による産業の革命とそれに伴う社会構造の变革、いわゆる「産業革命」により、私たちは高度に発達した工業の恩恵を受け、私たちの生活はますます便利になってきています。また工業の水準は高度化し、さらに加速されてきています。反面工業が高度に発達すればするほど資源をますます大量に必要とするようになりまして。また、以前には想像だにし得なかった資源であるウラニウム、レアメタルなどを必要としてきています。

資源・人口・環境破壊などの地球的な問題に対処するために設

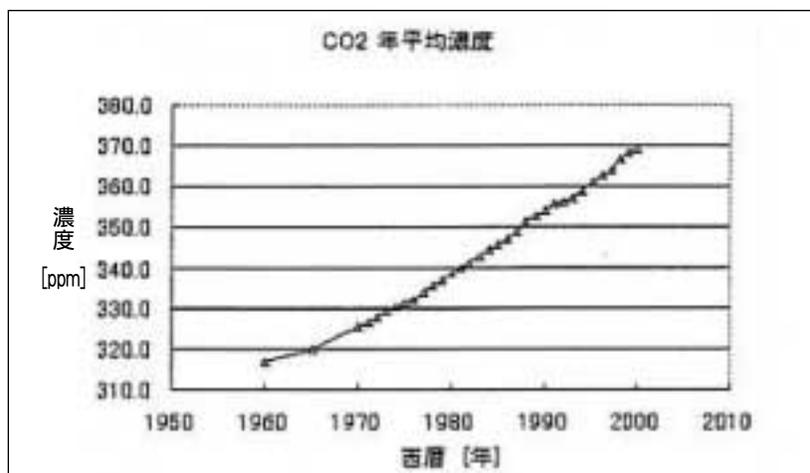
立した民間のシンクタンクであり、世界各国の科学者、学識経験者など100人からなる「ローマクラブ」によると、現在のままで環境破壊や人口増加が続けば、近いうちに資源の枯渇や環境の悪化により人類の成長の限界や破局が訪れると予測しています。

高度に発達した工業により便利さを追求してきた私たちの生活ですが、その負の遺産として大量のごみがあります。

ごみにも多種のものがありますが、大きく分けて無形のものと同形のものに分類されます。

無形のものとして、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)があげられます。次のグラフを見てください。これは、アメリカのオークリッジ国立研究所がハワイのマウナロア島で観測した二酸化炭素の濃度です。右肩上がりのグラフになっていきます。つまり、二酸化炭素は年々増加しているのです。昭和35年において316.9ppmだったものが平成12年には369.4ppmに増加しています。ppmとは100万分の1を意味しますので、10ppm

の増加とは0.001%の増加ということになります。一見非常に小さい値のため大した問題にならないと思われませんが、そうではありません。40年間の間に約17%も増加しています。



研究によると、過去数千年の間、大気中の二酸化炭素濃度は280ppm前後で安定していたことがわかっていきます。平成14年の二酸化炭素濃度は374ppmであったという観測値もあり、実

30%以上も増加しているのです。二酸化炭素の増加の原因は化石燃料の燃焼による割合が多くを占めています。

ガソリンや軽油を燃やして走る自動車、ジェット燃料を燃焼させて飛ぶ飛行機、石油や石炭を燃やす発電所、皆さんの周りですごみを燃やしても二酸化炭素は発生します。

二酸化炭素の増加も危惧されませんが、酸素の減少も無視できません。二酸化炭素は炭素と酸素が結合したものです。大気中の酸素濃度は約20%ですが、二酸化炭素が増加するということは、その酸素の減少を意味します。

ハワイのマウナロア島などは人間社会が排出する二酸化炭素の影響を直接受けることが少ない地域ですが、私たちが生活している日本は、高度に工業が発達した社会のため、より一層二酸化炭素の影響を受けることとなります。これは大人だけでなく、これから未来のある子供たちにも影響します。

これをうけて、地球温暖化の原因となる、温室効果ガスである、二酸化炭素、メタン等の排出削減を目的として、気候変動枠組条約に基づき、平成9年に京都議定書がかわされました。平成18年2月27日現在の署名国は84ヶ国となっ

## シリーズ ごみ

これは南部町（合併前の年度においては西伯町及び会見町の計）における家庭などから出された、可燃ごみ及び不燃ごみの排出量の推移です。

鳥取県西部広域行政管理組合リサイクルプラザの稼働した平成9

		西暦	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
		世/単位	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
人	行政区域内人口	人	12,464	12,410	12,343	12,332	12,334	12,394	12,481	12,361	12,324	12,376
□	町界外移住者人口	人	12,464	12,410	12,343	12,332	12,334	12,394	12,481	12,361	12,324	12,376
A	可燃ごみ	ト/年	1,218	1,271	1,377	1,661	1,860	2,143	2,312	2,408	2,400	2,480
		ト/年	288.0	288.4	283.5	283.7	419.0	473.6	540.0	534.7	555.3	581.0
白	不燃ごみ	ト/年	524	523	500	431	460	390	487	481	468	460
		ト/年	119.0	119.0	112.7	111.1	111.1	44.7	38.0	35.7	37.3	38.0

ています。これにより日本の削減量は平成2年（代替フロンについては平成7年）を基準として6%の削減量としています。

無形のごみに対して有形のごみですが、次の表を見てください。

年4月の前後で調査の方式が異なりますので、平成8年度以前においては若干内容が異なりますが、リサイクルプラザが稼働した平成9年度以後ごみの量は増加傾向にあります。平成9年度と平成16年度を比較した場合、一人当たりの排出量が、可燃ごみは約100%、不燃ごみは約60%の増加となつています。可燃ごみは焼却処分するために酸素を消費することとなり、その焼却後の残渣の処理を必要とし、焼却設備の維持管理が必要となります。不燃ごみに関しては、鉄、アルミ、カレット等として可能な限り再利用をします。

### 今年10月1日から「軟質プラスチック」等の分別収集の試行を行います

南部町としては、ごみの削減、循環型社会等を目的として、本年10月1日から「軟質プラスチック」等の分別収集の試行に取り組みます。現在「軟質プラスチック」等は可燃ごみとして焼却処分していますが、これを分別して固形燃料とするものです。これはRPF (Refuse Plastics and Paper Fuel) プラスティックと紙から得られる燃料)といい、プラスチックなどから固形燃料を製造

し、燃料とするものです。今まで燃やしていただけのものを燃料として利用することにより、本来使用していた燃料を節約でき、そのために二酸化炭素の発生を削減し、酸素の消費を抑制することができます。RPFの原料となる「軟質プラスチック」等として、スーパーの買い物袋、マヨネーズのボトル、包装用のフィルム、荷造りひも、卵パック、レインコート等が考えられます。具体的には、10月1日までに、「シリーズごみ」により、写真でお知らせします。

### ごみの分別のルールを守りましょう

次の写真を見てください。これは、南部町・伯耆町清掃施設管理組合（クリーンセンター）に持ち込まれた可燃物の中から出てきた不燃物です。クリーンセンターでは可燃物だけを処理しています。可燃ごみの袋の中に不燃物、例えば卓上こんろのカセット式ガスボンベ、スプレー缶、金属などが混入しますと、焼却炉内装置の故障の原因となり、修理費がかさむことにより負担が増えることとなります。また、リサイクルプラザでは穴を開けずにごみとして捨てられたカセット式ガスボンベにより



リサイクルプラザで見つかったカセット式ガスボンベ



クリーンセンターに可燃ごみとして持ち込まれた不燃ごみ

発火事故も発生しています。このようなものを入れることは、絶対にしないでください。